

短 報

ウェブ上看護エッセイ - 「看護ネット」 今月の看護師 - の評価

佐居 由美¹⁾ 中山 和弘²⁾

An Analysis of Online Essays by Nurses

Yumi SAKYO, RN, PHN, MS¹⁾ Kazuhiro NAKAYAMA, PhD²⁾

[Abstract]

St. Luke's College of Nursing provides a rich selection of high-quality health information and has established a website called Nursing Net (Kango Net ; the word Kango means "nursing" in Japanese). This website provides information for consumers of health services and people interested in the nursing profession.

To identify the needs of this website's users, we undertook two tasks in this study. First, we analyzed 70 nursing essays using Google Analytics that had been posted between December 2004 and March 2011. We investigated six items : page views, visits, average page, stay time, bounce rate (%), and withdrawal rate of <%>. Second, page evaluations were undertaken on 93 nursing essays, which had been posted between December 2004 and March 2013. The total study period was two years from April 1, 2011 to March 31, 2013.

Results showed that the mean number of visitors per month was 1,071. The essay with the highest mean (2,053 visitors) was, "The Brightness of the Life of Children," which pertained to child nursing, followed by "Interested in a Nursing Career"? (1,973 visitors), which covered professional nursing opportunities.

These essays illustrated nurses' clinical experiences and it appears that their dynamic descriptions of current professional situation have contributed to increasing the number of website users. It is important that the public understand the role of nurses so that nurses can better contribute to public health. The resources on Nursing Net appear to have improved health literacy among the public and the "Nurse's Essay" page will help the public to better understand nursing.

[Key words] Nurse's Essay, health literacy, website

[要 旨]

目的 看護に関するウェブサイト「看護ネット」の訪問者ニーズ把握のために、看護師エッセイ「今月の看護師」のアクセス状況およびページ評価について調査を行った。

方法 本調査では2種類の方法を用いた。1) 看護師エッセイ「今月の看護師」のアクセス状況を Google アナリティクスを用いて、ページビュー数、訪問数、平均ページ滞在時間、閲覧開始数、直帰率(%), 離脱率(<%)の6項目で調査した。調査期間は2011年4月1日から2013年3月31日の2年間とし、2004年12月から2011年3月までに掲載された看護エッセイ70件を対象とした。2) ページ評価は2004年12月から2013年3月までに掲載された93件の看護エッセイについて、アクセス状況と同様の期間に書き込まれたものを対象とした。

結果 各調査項目の平均は、ページビュー数1,236件、直帰率78%、離脱率39%であった。カテゴリー別の訪問者数は平均1,071件であり、最多は小児看護をテーマとした「子ども達の命に輝きを」の2,053件であった。ページ評価は平均4.6(1~5)件であり、「役にたった」「参考になった」などの自由記載が目立った。

考察 「子どもへの看護」「看護を目指すきっかけ」に関するエッセイの訪問数が高く、ニーズが高いと推察される。看護が市民の健康やヘルスリテラシー向上に寄与するには、看護を広く市民に理解してもらうことが必要である。本結果を踏まえ、「看護ネット」のコンテンツをより充実していく予定である。

1) 聖路加看護大学 基礎看護学 St. Luke's College of Nursing, Fundamentals of Nursing

2) 聖路加看護大学 看護情報学 St. Luke's College of Nursing, Health Sociology & Health Informatics

〔キーワード〕 看護師エッセイ、ヘルスリテラシー、ウェブサイト

I. はじめに

現在、人々は健康に関連する情報を自ら様々な方法で手に入れ、治療方法を選択し医療機関と関わっている。人々は固有のライフスタイルをもち、自分にとっての最良の健康を守り創るために、膨大な健康情報を理解し意思決定する必要性に迫られている。聖路加看護大学では、現在に生きる人々に質の高い健康情報を提供し、自らの生き方の選択を支援するため、文部科学省 21 世紀 COE プログラムの助成を受け、2005 年 2 月より市民と看護

職を結ぶコミュニティサイト「看護ネット <http://www.kango-net.jp/>」(図 1) を運営している。「看護ネット」は、“市民が自らの健康を創り、より良く生き、やすらかな死を迎えるために必要な市民のパートナーとしての機能をもつ”「看護」が蓄積している情報を、広く市民に活用してもらうためのサイトでもある。

当初、看護ネットは、文部科学省 21 世紀 COE プログラムにて行った各プロジェクトの研究成果を、市民や看護専門職に普及させるためにコンテンツ化し発信するしくみとして、また、市民に親しみやすいインターフェイ



図 1 看護ネット トップページ

スをもった総合的サイトとして構築した。その主な目的¹⁾
²⁾は、市民のヘルスリテラシーの向上を支援する情報を提供すること、意思決定に必要なエビデンスの見方などについて学習の機会、交流の場を提供すること、意思決定において、看護職が役割を果たせることをアピールすること、すでにヘルスリテラシーを身につけた市民の情報交換や活動の場の提供、支援を行うこと、等である。

看護ネットは、これらの目的を達成するために「情報コンテンツ発信」「相互交流の場“看護コミュニティ”」の2項目から構成されている。「情報コンテンツ発信」としては、イベント情報の提供、聖路加看護大学教員の研究活動状況や成果の紹介、ヘルスリテラシーについての紹介、子供向けサイトである看護ネットキッズがあり、「相互交流の場“看護コミュニティ”」としては、よろず相談所、看護師エッセイ「今月の看護師」などがある。

2013年4～8月における月間アクセス数は平均53,000件であり、2013年6月には1カ月で65,316件のアクセス数を獲得している。アクセスは、約半数がスマートフォンやiPadなどのデバイスからなされており、デバイス端末からの訪問者はここ数年で増加の傾向にある。また、相互交流をより深めるため、フェイスブック、Twitterにてアカウントを開設し随時情報を発信している。

今回、本サイトのさらなる改善を目指し、看護ネット上の人気ページ「今月の看護師」のアクセス状況およびページ評価アンケートについて調査を行ったためここに報告する。

II. 対象と方法

看護ネット「今月の看護師」の調査は、以下の2項目にて行った。

1. 「今月の看護師」アクセス状況

Google社が提供するアクセス解析ツールであるGoogleアナリティクスを使用した。Googleアナリティ



図2 今月の看護師 (トップページ)

クスを使用すると、ホームページへの訪問者数、訪問時間、閲覧ページなどを数値化して把握することが可能であり、本調査では、ページビュー数(ページを見た数)、訪問数、平均ページ滞在時間、閲覧開始数(最初にページを見た数)、直帰率(このページを閲覧し他のどのページに移動しなかった割合)、離脱率(訪問者が他のページを見て最後にこのページを閲覧した割合)の6項目を調査した。

調査期間は、Googleアナリティクスにてアクセス状況把握を開始した2011年4月1日から2013年3月31日の2年間である。Googleアナリティクス使用前期間はデータがないため、対象から除外した。対象は、2004年12月から2011年3月に掲載された看護エッセイ70件であり、エッセイがトップページに掲載(図2)された期間はアクセス数が多いため、対象外とした。

2. ページ評価アンケート

2004年12月から2013年3月に掲載された93件の看護エッセイを対象とし、看護ネットの各ページの末尾に設置された5段階*によるアンケート結果を集計した。期間はアクセス状況と同様に、2011年4月1日から2013年3月31日の2年間とした。

*5. とても役に立った, 4. まあ役に立った, 3. どちらともいえない, 2. あまり役に立たなかった, 1. まったく役に立たなかった

III. 倫理的配慮

ページ評価アンケートは無記名であり、IPアドレスは調査内容に含まれず、アクセス者個人が特定されることはなく、評価者、アクセス者の個人が特定されることはない。

IV. 結果

1. 「今月の看護師」アクセス状況

各調査項目の平均は、ページビュー数1,236件、訪問数1,078件、平均ページ滞在時間約1分、閲覧開始数584、直帰率78%、離脱率39%であった。

ページビュー数は、看護師エッセイの内容をカテゴリー別に分け、平均値を算出した。

カテゴリーは、「今月の看護師」の各エッセイが市民目線で分類されているページ「看護エッセイ」(図3)における分類を用いた。カテゴリー別エッセイ訪問数を表1に示した。訪問者数は平均1,071件であり、最多は小児看護をテーマとした「子ども達の命に輝きを」のカテゴリーの平均2,053件、次が、看護を志向するきっか

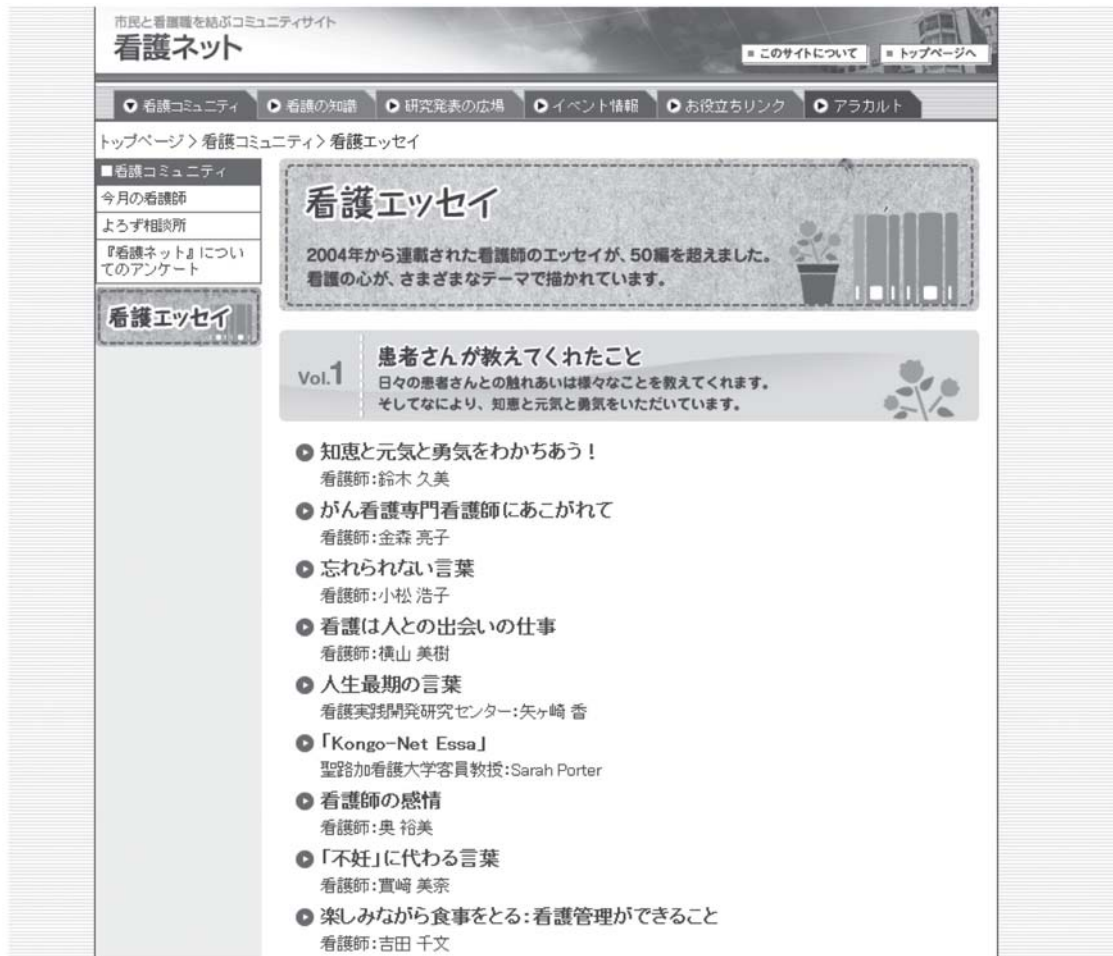


図3 看護エッセイ（「今月の看護師」テーマ別）

表1 カテゴリー別エッセイ平均訪問数

2011.4.1～2013.3.31

カテゴリー（エッセイ数）	カテゴリーの概要	平均訪問数
子ども達の命に輝きを（4）	病気や障がいを持った子どもと家族と共に、どんどん広がる看護の可能性。	2,053
看護師を目指す貴方へ（18）	人は時の中を歩み、時とともに生きている。「看護」を発見する、心の闇が晴れる瞬間とは。	1,973
患者さんが教えてくれた事（18）	日々の患者との触れあいのなかで教えられたこと。知恵と元気と勇気をいただく日々。	1,040
命の尊さを伝える（12）	出産という「よろこび」の感動を、未来を背負う子ども達に、伝えていきたい。	962
患者さんの心に寄りそう 心の看護（4）	元気な時も、病気のときも、人の心のあり方を見守り、支えること。	960
「感性」を磨く日々ー看護師の日常の中でー（12）	人との出会いや日々の触れあいの中で大切な「感性」。患者の思いを常に感じ、尊重するような看護師でありたい。	898
私たちの取り組みー看護師として今出来ること（14）	よりよいケアを目指す、新しい活動。毎日がかけがえのない仲間や発見の連続。	773
国と言葉を越えてー海外の看護（4）	地球は私たちのコミュニティ。国境を越えて存在する看護。	716
在宅ケアの仕事のなかで（8）	病気の回復、予防、症状の緩和など、患者と家族の手伝いをする在宅ケア。	672

表2 エッセイ別ページビュー数（上位20エッセイ）

2011.4.1～2013.3.31

エッセイのテーマ	ページビュー数	概要
理想の看護師像をめざして…	8,850	理想の看護師像について 1年目に出会った先輩看護師のこと
手術室看護から周麻酔期看護へ、私のフライト	5,682	手術室の看護（器械出しと外回り）と周麻酔期看護の紹介 そして現在の思い
看護の道に進んだ理由	4,724	看護の道に進んだきっかけ（高校時代の入院）と、看護の魅力について
救命救急センターに勤務して	4,286	救命救急センターでの日常とプライマリー患者さんとのエピソード それを通して感じたこと
「看護外来」の可能性 ～外来看護師が関わる在宅療養指導の取り組み～	4,107	在宅療養指導の説明と看護外来の紹介、実際の活動とすること
重症心身障害児施設で学んだこと	3,898	重症心身障害児施設配属の経緯とそこでの毎日、その中で思うこと
「やりがい」「専門性」で終わってはいけない	3,656	感染症を専門に決めた経緯と、HIV看護について 感じることに現在の活動
「看護の醍醐味」	3,218	患者さんとの関わりから感じた看護の面白さと奥深さ、ありたい看護師としての姿
看護の魅力は無限大 一過去を振り返って、いま思うこと一	2,654	看護の道に進んだ経緯と転機 実際にやってみて気付いたその魅力について
看護の道を選んだ理由、そして今	2,534	看護の道を選んだきっかけと現場で感じたこと、現在の思い
発見！ 看護って？	2,250	「これが看護かぁ！」と思った瞬間
小さな我が子を看取るということ	2,020	助産師を志したきっかけとNICUでのエピソード、現在の思い
看護を深めること	1,937	病棟勤務の中で感じることに、看護を考える難しさと現在の思い
見えないものを見る	1,917	患者さんとのエピソード、精神看護の特徴と今思うこと
遺作	1,880	小澤道子先生の研究（ナイチンゲールの研究）の紹介とエピソード
そんな私がなぜ看護師をやっているのか	1,853	看護師になった経緯とその中で感じたこと、現在の思いについて
頑張れ！受験生！	1,757	看護師国家試験とその中で感じたこと
楽しみながら食事をとる：看護管理ができること	1,751	看護管理の紹介とそれについての思い、一人の看護師が実践していた看護管理のエピソード
看護師長の仕事の魅力	1,680	看護師長の仕事の紹介と病棟でのエピソード
緩和ケアのやりがい	1,607	看護のやりがいについて、緩和ケア病棟での患者とのやりとり

けなどをテーマとした「看護師を目指す貴方へ」の平均1,973件であった。

エッセイ別のページビュー数（表2）は、多い順に「理想の看護師像をめざして…」8,850件、「手術室看護から周麻酔期看護へ、私のフライト」5,682件、「看護の道に進んだ理由」4,724件であった。カテゴリ別に見ると、カテゴリ「看護師を目指すあなたへ」が7エッセイ、「患者さんが教えてくれた事」が5エッセイであった。

2. 「今月の看護師」ページ評価

看護ネットのページ評価アンケートは1,253件あり、「とても役に立った」「まあ役にたった」が全体の91%を占めていた。うち、「今月の看護師」ページの評価が326件あり5点満点中平均4.6の評価を得た。また、コメント欄への自由記載は34件あり、コメント内容を看護エッセイのカテゴリ別に見ると、「看護師を目指すあなた

へ」では、「看護師を目指す私にとって参考になった」「理想の看護師像がヒントになった」「とても素敵だと思った」「志の高さに敬愛を感じた」「落ち込んでいたが、また、仕事に行こうと思えた」といったコメントがあった。「いのちの尊さを伝える」では、「小児看護師になりたいので、役に立った」「助産師という仕事はすばらしい」といった小児看護師、助産師という仕事への理解に関するコメント、「患者さんが教えてくれたこと」では、「看護管理がわかりやすく説明されていた」「緩和ケアはやりがいのある仕事」といった専門領域についてのコメントや、「涙が出た、心打たれた」という感想、「プロを名乗って恥ずかしくないのか」といった否定的な内容が見られた。「子ども達の命に輝きを」では、「看護外来について初めて知った」「看護外来に期待する」「実習が不安だったが、楽になった」といったコメントがあった。他にも、目標をもつことの大事さ、手術室看護、精神看護について書

き込まれていた。

V. 考察

1. 「今月の看護師」評価

このページのみを見てサイトを離れた率である直帰率が約8割と高い。このことは、このページだけを目当てに「看護ネット」サイトを訪問する訪問者が多いということを示している。ページビューの各エッセイの平均数をカテゴリー別に見ると、最も多かったのは「子どもへの看護」および「看護を目指すきっかけ」をテーマとしたもので、これらのテーマについて訪問者のニーズが高いことが推察される。ページ評価アンケート結果も、平均4.6（1～5）と高く、訪問者の満足度が高いことがうかがえる。自由記述を見ても、参考になった・役に立った、という内容が目立ち、看護についての有益な情報を提供できていると評価できる。

今月の看護師では、市民に看護実践のありようを紹介するために、一般病棟、救急救命センター、緩和ケア病棟、外来、手術室、訪問看護ステーション、産科クリニック、保健室、保健所、海外など多様な場をテーマとして網羅しているが、このような看護を提供する様々な場でのエッセイの他に、看護におけるやりがいや、看護職を目指すきっかけ、看護師になるまでの体験をテーマにしたエッセイが目立つ。それらは、さまざまな苦い経験から得たもの、日々の患者さんとの関わりから感じるやりがい、進路への迷いや留年を経てたどり着いた看護の仕事について語られており、看護職のリアルな体験を読むことができる。

このように、今月の看護師では、執筆者の臨床での経験や看護についての思いが具体的に赤裸々に語られ、看護師の実践のあり様がわかりやすく記されている点が、高い評価を得ている要因であるといえよう。ウェブ上で掲載されている看護についてのエッセイでは、日本看護協会が「看護の日」にちなんで募集している「忘れられない看護エピソード」³⁾がある。これは、看護職、一般の方々から看護にまつわる心温まるエピソードを募集したものであり、全国からの応募数は3,419作品にのぼり、看護エピソードへの関心の高さがうかがえる。一方で、「今月の看護師」は、心温まるエピソードのみならず、患者さんとの苦い経験、挫折などネガティブな内容もリアルに語られている点が特徴的だといえよう。そのようなリアルな内容が、読み手の胸に響くからこそ、“涙が出て心が打たれた”といったコメントにつながっているのだと思われる。また、“また、仕事に行こうと思えた”“実習が不安だったが、少し肩が楽になった”というコメントを見ると、看護学生や看護職をエンパワーする役割を果たしているともいえる。

看護ネットにおいて、看護エッセイ「今月の看護師」のページは、毎月算出しているページ別訪問者数順位の上位に常にランクしており、看護ネットを代表するページといっても過言ではなく、本ページを充実させることで看護ネットのさらなる発展につながることを推察される。今後は、訪問者のニーズの高い「子どもへの看護」「看護をめざすきっかけ」に関するコンテンツを充実させるとともに、産業保健師など、まだとりあげられていない領域のエッセイを掲載していきたいと考える。また、看護ネットの目的の一つである、看護職のナラティブから暗黙知を掘り起こし形式知とすることを目指し、今月の看護師における語りの内容の分析をさらに深めたいと考える。

2. 「今月の看護師」とヘルスリテラシー

看護ネットは、“市民が自らの健康を創り、より良く生き、やすらかな死を迎えるために必要な市民のパートナーとしての機能をもつ”「看護」が蓄積している情報を、広く市民に活用してもらうためのサイトであるが、市民に看護を活用してもらうためには、看護職ができること、すなわち看護の実践の様相を広く市民に理解してもらうことが必要であると考えられる。「看護師さんって何する人?」「注射する人?」「お医者さんのお手伝いをする人?」といった、あまたある一般的なイメージを払拭し、看護職の様々な場での多様な実践を世間に知ってもらい、看護職から情報提供するのみでなく、市民から看護をリソースとして活用してもらうことが必要である。そして、それこそ、市民主導型の健康生成 People-Centered Care への道である。

また、市民に看護を知ってもらうこと、看護の知恵を知ってもらうことは、市民のヘルスリテラシー向上にも寄与すると考えられる。ヘルスリテラシーは、健康情報に関連した自分に合った情報を選び、活用する能力⁴⁾とされており、インターネットからの情報に対象を限定したeヘルスリテラシーという概念もある⁵⁾。わが国のインターネットの人口普及率は平成23年末で79.1%といわれ⁶⁾、多くの人がインターネットから情報を得ている。だが、インターネットで発信されている情報は、物品販売がらみの怪しげな健康情報など玉石混交であり⁷⁾、市民のeヘルスリテラシーの向上が急務である。米国の大学ではウェブサイトによって市民向けの情報提供が盛んであり、2004年3月現在で443校のサイトが確認されている⁸⁾。看護ネットでも、ヘルスリテラシーを身につけるための「健康を決める力」サイトを設置しているが、今後も米国のサイトなどを参考に、市民のヘルスリテラシーに寄与するための検討をさらに進める必要がある。今後は、ソーシャルメディアの積極的な活用も視野に入れ、「今月の看護師」を含めコンテンツ全体の改善を行っ

ていきたいと考えている。

なお、本研究は、文部科学省研究補助金（基盤B：課題番号 23390497）の助成により実施し、一部を第18回聖路加看護学会学術大会にて発表した。

引用文献

- 1) 中山和弘 (2008). 健康資源コンテンツデジタル化と e-learning 開発 People Centered Care 21 世紀 COE プログラム市民主導型の健康生成をめざす看護形成拠点研究正解最終報告書 . 63.
- 2) 中山和弘 (2005). 健康情報コンテンツ発信・相互通信システム開発 市民と看護職を結ぶコミュニティサイト「看護ネット」, 21 世紀 COE プログラム 市民主導型の健康生成をめざす看護形成拠点 平成 17 年度研究成果報告書 . 34.
- 3) 日本看護協会編 . 「忘れられない看護エピソード」 . 公益社団法人日本看護協会 . <http://www.nurse.or.jp/home/event/simin/episode/index.html> [2013. 10. 3]
- 4) 光武 誠吾, 柴田 愛, 石井 香織, 岡 浩一朗 (2012). eヘルスリテラシーの概念整理と関連研究の動向 . 日本健康教育学会誌 , 20 (3), 222.
- 5) 光武 誠吾, 柴田 愛, 石井 香織, 岡 浩一朗, (2012). eヘルスリテラシーの概念整理と関連研究の動向 . 日本健康教育学会誌 , 20 (3), 224.
- 6) 総務省編 . 平成 24 年度情報通信白書 , 第 2 部情報通信の現況と政策動向 , 第 3 節インターネットの利用動向 . 総務省 . <http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h24/html/nc243120.html> [2013. 10. 3]
- 7) 佐藤 りか (2006). 【IT 時代のヘルスリテラシー】 DIPEX 「患者の語り」が医療を変える . からだの科学 , 250 号 . 53.
- 8) 中山 和弘, 戸ヶ里 泰典, 近藤 佳代子, 宇城 令, 的場 智子 (2008). 米国の大学におけるウェブサイトによる市民向け健康情報の提供方法と内容 . 日本健康教育学会誌 , 12 (Suppl), 190.